



新潟県立柏崎常盤高等学校
2学年だより 第23号
平成27年4月22日発行

スタディーサポート結果と学習時間

新学年になって一ヶ月が経とうとしています。1学年から比べると、学習内容も徐々に高度になり、さらに部活動や学校生活もますます忙しくなっています。しかし、その忙しさを、学習をしないための言い訳にははいけません。2学年の今の時期、しっかりと基礎固めをしないと、3学年の受験校決定の際に思いのほか実力不足を感じ、後悔することになります。

さて、ここで1年生の3月に受験した、「2年生スタディーサポート第1回」を含め、これまでの振り返ってみます。

＜本校2学年の平日・休日の家庭学習時間の推移＞（ ）内は1つ上の学年

項目 (括弧内はその回のテーマ)	1年生第1回 「中学生」から 「高校生」に変える	1年生第2回 高校生活への 自身を高める	2年生第1回 進級後の再スター トを成功させる。	2年生第2回 受験準備を スタートさせる。
平日学習時間	1時間19分 (1時間24分)	1時間7分 (1時間5分)	51分 (59分)	【8月実施予定】
平日参考値(※1)	1時間11分	1時間11分	1時間28分	1時間28分
休日学習時間	2時間 (1時間57分)	1時間38分 (1時間51分)	1時間21分 (1時間36分)	【8月実施予定】
休日参考値(※1)	2時間4分	2時間4分	2時間29分	2時間29分

※1 参考値・・・国立合格者(GTZ:Aレベル)合格者の回答内容の全国平均値

学年が進むに従って学習内容も難しくなり、本来ならば学習時間は増えなければなりません。

しかしながら、回を重ねるごとに学習時間は減ってきています。これは**危機的状況**です。

入学当時は、参考値と比べても大きい差はなかったようです。しかし、回を重ねるごとに、参考値との差は広がってきています。

ベネッセの調査によると、全国の受験生の**高校2年生春**における、各大学の合格者の平均学習時間は、
MARCH（明治・青山・立教・中央・法政）に合格した生徒・・・80分、
日東駒専（日本・東洋・駒澤・専修）の場合・・・60分
大東亜帝国（大東文化・東海・亜細亜・帝京・国士舘）・・・30分
だそうです。

これは、スタディーサポートの全国集計からでた結果ですが、努力した分だけ結果に表れる、という傾向にあるようですね。努力は人を裏切りません。

したがって、現在それなりの努力もせず、やっと3年生の秋に受験勉強を始めても、今の目標とする大学に合格することは、まずありません。

ということは、学習時間の少ない人は、2年生の今から、家庭学習の習慣を定着させていかなければならないのです。

家庭学習とは何か

では、家庭学習は何をするの？と、思う人もいるかもしれません。

課題も家庭学習ですが、課題はやって当然！！最も大事なものは予習と復習、特に復習を欠かさずやることです。

まず、「平日の勉強をほとんどしない」という人。まずは10分でも20分でもいいから始めましょう。ただし、続いたところで徐々に増やしていくこと。それ以外の人も、望ましい学習時間は平日は少なくとも60分、標準は90分です。工夫して、時間を確保していきましょう。

それでもなかなか勉強できない人のために。工夫のためのアドバイスをこっそり伝えます。

① 家に帰ったら着替えず、そのまま30分～1時間勉強する。

(=「学校の延長」という感覚を身につける)

② 起床時間、勉強の開始時間、就寝時間を固定する。

(=「学習の三点固定」といいます)

③ 1週間の予定表をつくる。

(ただし、この方法は合う合わないがあります。逆に、学習した内容を日記のように記録して、達成感を得ていくという方法でもOK。)

④ 部屋を片付ける。机の上をきれいにする。

(気が散るものをできるだけ排除する。特にスマホ等は勉強中には手の届くところにおかない)

(うらにつづく)

**4月14日進路学習として学年集会でトライしてもらった大学入試〇×クイズ解答編です。
ではもう一度、今度は親子でぜひ一緒に！**

<いつやるのか？>

Q1 大学入試の方式として、推薦入試・AO 入試・一般入試と大きく3方式あるが、一番早く始まるのは推薦入試である。

(×) 一番早いのは AO 入試です。私大では 1 学期中からエントリーが始まって、8 月 1 日から出願受付が開始し、それ以降年間を通して実施されます。推薦入試は 1 1 月から願書受付開始です。

Q2 各大学は毎年、4月に一般入試のやいかた(試験の期日、入試科目、配点など「募集要項」という)を発表・配布する。

(×) 「募集要項」とはいわゆる出願書類の「願書」が含まれている入試の方法を説明しているものです。「学校案内」は 4 月以降新年度のものが出ますが、「募集要項」が出そろうのは 7 月です。

Q3 センター試験は 1 月に実施されるが、出願は 10 月である。

(○) 大学入試センターから 9 月に「受験案内」(出願用紙を含む)が配布され、1 0 月上旬から中旬までに出願です。

Q4 国公立受験者または私立大学受験者がセンター利用入試を受ける場合、センター試験後、大学入試センターから試験結果(点数)を教えてもらい、出願する大学を決める。

(×) 希望するとセンター試験の結果は自宅に郵送されますが(有料)、4 月以降です。入試はすべて終了し、結果が出た後です。センター試験受験後、自己採点をして、国公立大学は出願先を決めます。私大のセンター利用入試はセンター試験前に出願するところが多いので、センターの結果次第では…

Q5 国公立大学は、2 次個別試験は前期日程、中期日程、後期日程とある。中期以降は前期日程の結果が分かってから出願する。

(×) センター試験が終わり、自己採点をし、模試業者や予備校にデータを送り、志望校の可否予想がその週のうちに戻ります。それから前期、中期(公立大学の一部)後期と最大 3 校出願できますが、出願は 1 月終わりから 2 月始めにかけて全部一緒にします。前期合格して手続きをすると、中期、後期は受けられません。

Q6 センター試験の出願は、大学入試センターに各自郵送で行う。

(○) 現役生は在籍する高校でまとめて出願します。担任、進路で何度もチェックをして間違いがないよう確認します。

Q7 センター試験で受験する科目(たとえば地歴公民は世界史を、理科は生物で受験するなど)は出願時に申請する。

(×) いろいろ変わるのですが、今は教科ごとに(理科とか社会)受けるか、受けないか、受けるなら何科目かを出願時に申請します。科目は当日選べますが、もちろん本番までに受験教科を決めて勉強しておかなくてははいけません。

Q8 すべての国公立大学は一般入試ではセンター試験受験が必要である。

(○) 確かに、数年前はごく一部の公立大学でセンター試験が必要でない学校がありましたが、現在は北から南まで入試科目をチェックしましたが、全部センター試験が必要でした。

Q9 私立大学の80%以上がセンター利用入試を行っている。

(○) 現在は 9 0 %を超えています。

Q10 センター試験の受験料を払うだけで、私立大学センター利用入試は何校でも受験できる。

(×) ほとんどの私大のセンター利用入試はセンター試験を受けるだけで合否判定をしてくれますが、受験料は 1 校 3 万円かかります。Q 4 の答えももう一回読んでみてください。

Q11 AO 入試、推薦入試はセンター試験を受ける必要はない。

(×) 国公立の場合、AO、推薦入試でもセンター試験が必要な場合が多くなっています。理由は Q15 の答えに一。

<推薦入試>

Q12 国公立大学、私立大学ともに入試の主流は一般入試である。

(×) 国公立は一般入試が主流ですが、私大は、AO や推薦による入学者が半数を超えています。少子化の影響で私大は早く学生を確保したいという側面もあると思われます。

Q13 推薦入試で合格した場合、必ずその大学に入学しなければいけない。

(×) 私大の推薦はいろいろですが、「専願」であれば、合格したら必ず入学することを約束して受けます。「併願」可であれば、他の大学に合格しそちらに行きたければ、入学手続きをしなればよいということになります。

Q14 国公立大学には指定校推薦はない。

(○) 指定校推薦は私大のみです。国公立の推薦は公募推薦のみです。国公立なので、特定の学校から推薦で生徒を受け入れるということはありません。大学の提示する一定の条件(主に成績)を満たした場合、在籍する高校の学校長名で推薦状をもらって受けます。私大は、一般入試での合格者、入学者がある高校に対して大学が成績などの要件を定めて高校の学校長に入学専願者の推薦を依頼します。必ず合格すると言っても過言ではありませんが、入学を辞退したり、入学後成績が悪かったりすると指定校を取り消されるということもあり得ます。指定校推薦で合格した人には、高校や後輩に対して責任を負うという自覚が必要です。

Q15 推薦入試では学力試験を課す代わりに、調査書や小論文、面接のみで合否を決める。

(×) 確かに私大では、調査書や小論文、面接などで合否を決める場合がほとんどですが、国公立の場合、面接でも口頭試問などの学力試験を課したり、センター試験の成績も合否判定に使ったりする大学が増えてきています。その背景には、一般に推薦入試合格者の学力が一般入試合格者に比べて低いということがあります。

クイズ大会終わって、本当にみんなよく知らないんだなということとはよく分かりました！(最初の 2 問でほぼ全滅でした。)確かに今の大学入試制度は複雑ですが、受ける以上はまずそのシステムについての基本知識が必要です。

今回推薦入試について多く説明しました。もし、推薦で早く合格して楽になりたいと考えている人がいたらちょっとよく考えてみてください。そういう生徒側の要求と、私大(専門学校も)の早く生徒を確保したいという要求が一致した結果が Q12 の答えにあるように思われます。読売新聞の調査によると、推薦で入学した生徒の中退率のほうが、一般入試の入学者より高いそうです。推薦では志望理由などが重視されるはずなのに、おかしいことですよ。やはりそこには、Q15 の答えにある学力の問題もあるのではないのでしょうか。私大や専門学校の AO 入試は陰で、“All is OK”入試(受ければだれでも入れる)とまで言われています。もちろん全部ではありませんが一。大学入試でも甘い言葉に惑わされないよう気をつけてください。

どんな入試制度であれ、まずは、しっかりと学力をつけることです。

さて公募推薦・指定校推薦の話をしたので、ここで今から気を付けて欲しい本校の推薦入試の出願条件(校内基準)の注意事項を載せます。

(注) 下記に相当する場合は、原則として学校長による推薦はできないものとする。

ア 高校入学から出願時までの欠席が 10 日を超える場合。

ただし、やむを得ない事情があると認められる場合は審議する。

イ 3 年 1 学期までの評定平均値が 3. 0 を下回る場合。

ウ 3 年 1 学期末で赤点がある場合。

※ **文系から看護医療系、理系学部への推薦は行わない。**

1 学期末までに、3 年次のコース選択をします。勉強もそうですが、進路学習も受け身ではなく、自分で調べようとする姿勢が大切です。しっかりと考えましょう！！